

平成 30 年 8 月 20 日

8 月の木材価格・需給動向

1. 国産材(北関東)

栃木県では連日の暑さの中、間伐材中心の原木生産が続いているが、材の傷みが懸念され、出荷量は少ない。7月中旬から下旬にかけてスギ 3m 柱取りが急速に値を上げ、近県に一気に波及した。市況の平均は m^3 当たり 13,500 円だが、高値は 15,000 円の取引となった。原木の品薄感はまだまだ続いており、8月に入ってもスギ、ヒノキとも引き合いは強い。ヒノキ 4m 土台取りも依然 19,500 円の高値で取引されている。

群馬県では原木の出材が減少しており、主な仕入先である森林組合の市売停止もあって、集荷にやや苦労している。原木在庫は十分で、操業は順調に進んでおり、公共工事と大型物件が中心で多忙な状況。一般物件は例年並み。8月末までの仕事は確保しており、製品市場からの発注も増加している。製品在庫は羽柄材が全体的に品薄だが、母屋、柱、桁等には一服感がある。製品価格は一段落して横ばいで推移。

2. 米材

7月に入り、米加北西部の山火事警戒レベルが急上昇。現在、米国内港頭在庫は潤沢な水準を維持しているが、入山禁止になると、一気に材不足に転じる可能性がある。カナダ側は元々在庫水準が低調な中で伐採調整に入ったため、7-9月はかなり低水準での在庫推移が予想される。ウェアハウザー社の8月積み対日価格(推定)は7月価格据え置き $\$1,010$ 。日本側からの値下げ要請に対し、山火事シーズンに入り、値下げの余地なしの決着となった模様。米国製材品市況は6月中旬に最高値から反落し、その後8週続落となっているが、依然高値圏にあり、まだまだ底が見えない。ランダムレング紙 15 種平均価格(8/3 現在)は $\$463/\text{M}$ で7月頭に比べ 15.3%down(1ヵ月で $\$84/\text{M}$ 下落)。原因は米国内での購買意欲の減少と新設製材工場による供給増にある。

6月の原木入荷量は $220 \text{千}\text{m}^3$ 、1~6月累計で $1,358 \text{千}\text{m}^3$ (前年同期比 0.8%減)とほぼ前年同期並み、出荷量は $215 \text{千}\text{m}^3$ 、1~6月累計で $1,330 \text{千}\text{m}^3$ (同 4.8%減)とほぼ入出荷が見合った形。在庫は前月より $5 \text{千}\text{m}^3$ 増の $227 \text{千}\text{m}^3$ となり、在庫率は1ヵ月に回復。国内の米材製材工場は現地挽き DF 製材品の入荷が少ないため、小角の荷動きが好調であり、昨年同期並みを維持している。7月の東京木材埠頭の入荷量は $26 \text{千}\text{m}^3$ (前月比 2.7%減)、出荷量は $26 \text{千}\text{m}^3$ (同 3.8%

増)、在庫量は 51 千 m^3 (同 0.9%減)。YC は荷余り感があり、価格は落ち着いている。

3. 南洋材

サバ州では原木輸出禁止後、違法伐採などが一部で発覚し、制度の抜本的改革が必要で禁輸は長期化しそうだ。サラワク州の原木輸出枠は 20%で今年 12 月まで延期されたが、来年 1 月に 10%削減されるか注目されている。PNG、ソロモンでは中国市場に一服感があるため、価格は若干調整されている。今まで高値を嫌っていたインド・ベトナム・韓国が買い支えている状況。インドネシアのカリマンタンでは原木不足は変わらないが、工場の原木在庫は増えてきた。8 月予想の原木入荷は 19 千 m^3 、出荷は 19 千 m^3 、在庫は 18 千 m^3 、製材品の入荷は 35 千 m^3 。6、7 月の商況は良くなってきたが、フリー板は国内在庫が多く、価格も下げ基調にある。

4. 北洋材

産地では赤松の良材原木が不足し、日本向け主工場でも品質低下が目立つ。赤松原木・原板の中国からの引き合いは強く、対日向けにも影響が大きい。現地挽き完成品は新規注文が全く入らず均衡状態。産地工場の注文残が無くなってきている。赤松原板は日本側の契約残があり様子見だが、品質低下問題でシッパーと交渉が揉めている。国産完成品は安定した荷動きだが、原板コストの上昇等で採算は厳しい状況。8 月予想の原木入荷は 10 千 m^3 、出荷 10 千 m^3 、在庫 19 千 m^3 、製品入荷(東京+川崎)は 18 千 m^3 、出荷 18 千 m^3 、在庫 39 千 m^3 。

5. 合板

原材料について、国産カラマツは引き合いが強い。西日本豪雨の影響で北海道や東北に原木を求める動きが想定され、価格は強含みのまま推移していくものと予想される。ロシア産カラマツも強含みのままで出材も限定的で先行き不透明。米材は先月より若干の値上がり。南洋材は依然高値張り付きのまま推移。

6 月の国内合板生産量 28.2 万 m^3 のうち針葉樹合板は過去最高記録の 27.2 万 m^3 、出荷量は 25 万 m^3 となった。在庫量 16.3 万 m^3 のうち構造用合板は 13.8 万 m^3 と増加している。国内針葉樹合板の 8 月メーカー出し価格は横ばいで依然強気姿勢のまま。大手問屋の展示会に対抗する動き次第では多数の安値が散見することも考えられる。針葉樹合板は殆どのアイテムで不足感は無くなった模様。輸入合板は依然ラワン構造用の不足感に加え、T1 の 3mm と 5.5mm も物不足に陥っている。6 月合板輸入量は 23.2 万 m^3 と先月より 4 万 m^3 ほど低

い。現段階の平均入荷量は昨年以上となっており、入荷量自体は増えているが、アイテムによっては偏りがあるため、需要動向次第では更なる品不足になることも考えられる。産地マレーシアでは伐採作業自体は通常通りだが、伐採規制強化の影響により供給量は微増程度で各シッパーの在庫量は大きく回復していない。インドネシアの原木状況は先月よりは回復しているが、在庫状況は安心できる状況ではない。先行き、8月中旬には大手問屋の展示会があることから、価格動向に注視していく必要があるだろう。

6. 構造用集成材

各社ともラミナ在庫は潤沢にあるため、第3・四半期の契約数は少な目の所が多い模様。国内メーカーの受注は落ち着いている。RW 梁桁の販売、荷動きは鈍いものの受注は増加。8月に入り、プレカット工場の稼働率は上がっているが、在庫が多く、荷動き好転までは至っていない。ラミナのコスト高で国内メーカーは販売価格を下げられる状況にないが、在庫過多のため生産調整やスポットでの安値販売で在庫を調整している。RW 輸入集成材の入荷は増加、WW 管柱は減少。現地の夏期休暇を挟むため、供給量は例年通り減少の見通し。

7. 木材チップ

チップ原木の入荷は順調で概ね例年並み。解体材の入荷も例年並みだが、製紙・バイオマス発電共に大型定期修理があり、余剰感が継続中である。製紙用国内針葉樹チップは増集荷を継続中だが、定期修理の影響で消費量は削減中である。燃料用も製紙・バイオマス発電とも異常な高温のため蒸気使用量が減少し、結果として燃料消費量が減少している。輸入針葉樹チップに割高感があり、国内産チップの出荷要請を継続中。

8. 市売問屋

新築が少ないのか国産材構造材の動きが悪い。土木関係材の動きはあるが、入荷が少なく不足感が強い。外材構造材も当用買いの域を出ていない。内装材に無垢の国産材を使用する量が減っている。ピーラー、スプルーも少量しか動かない。国内製材所、外材問屋とも全般的に値上げ傾向にある。

9. 小売

国産材構造材ではヒノキ、スギとも大きな動きは見られず保合い。90 角に品薄感がある。外材構造材では米マツが強含み、米ツガの需要は一部品目を除き、依然底堅い。欧州、ロシア材は強含みだが、町場の荷動きは鈍く、製品への価格転嫁が進まない。造作材では加工材にやや動きが見られた。輸入合板は価格の高止まりが続き強保合い、国産針葉樹合板は保合い。パーティクルボードの品薄感が続いている。

1. 主要外材入出荷在庫量

		入荷量	出荷量	在庫量
米材	丸太	→	→	→
	製材品	→	→	→
北洋材	丸太	↘	→	→
南洋材	丸太	↘	→	↘
	製材品	→		

矢印の表示は今月に対する翌月の動向を、下記のように示したものである。

- ↑ 急増・急上昇
- ↗ 増加・上昇
- 横ばい
- ↘ 減少・低下
- ↓ 急減・急落

2. 合板供給量

国内製造量	輸入量		
	計	インドネシア	マレーシア
↘	→	→	→

3. 価格動向

樹材種	形状	取引条件	樹種・寸法等	動向
国産材	丸太	卸売価格 (北関東、県内産 市場土場渡し)	スギ柱材 (3m) 2等	→
			スギ中丸太 (3.65m) 2等	→
			ヒノキ柱材 (3m) 2等	→
			ヒノキ中丸太 (4m) 2等	→
	製材品 (関東近県産 板は東北産)	首都圏・市売り 価格	スギ柱角 (KD) 10.5×10.5×3m 特等	→
			スギ柱角 (KD) 12.0×12.0×3m 特等	→
			スギ間柱 (KD) 10.5×3.0×3m 特等	→
			スギ加工板 1.3×18.0×3.65m 特等	→
			スギタルキ 3.0×4.0×3.65m	→
			ヒノキ柱角 (KD) 10.5×10.5×3m 特等	→
ヒノキ柱角 (KD) 12.0×12.0×3m 特等	→			
ヒノキ土台角 12.0×12.0×4m 特等	→			
米材	丸太	産地価格	米マツ ISタイプ	→
		国内卸売価格 (京浜・オントラ)	米マツ ISタイプ コースト	↗
	製材品 (カナダ産・ 現地挽き) (国内挽き)	東京・問屋店頭 渡し価格	米ツガ桁角 (KD) Std&Btr S4S 10.5×10.5×4m	↗
			米マツ桁角 (GR) Std&Btr S4S 4・1/8" 13'	↗
			米ヒバ土台角 (GR) Std&Btr 4・13/16" 13'	↘
米マツ平角 (KD) 特等 10.5×24.0×4m	→			
南洋材	丸太	産地価格	メランティレギュラー	↗
		東京・水面筏 渡し価格	メランティレギュラー 60cm上、4m上 製材用	→
	製材品	産地価格	メランティレギュラー 60cm上、4m上 合板用	→
		東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトセラヤ 平割 (サバ州産) 同上2.4cm×込み×4m 定尺1等	↗ →
北洋材	製材品	国内卸売価格 (京浜・オントラ)	アカマツ (KD) 30×40上級	↗
		アカマツ (KD) 16×40上級	↗	
欧州材	製材品 (現地挽き)	東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド 間柱 2.7×10.5×3m S4S FOHC	↗
集成材	国産	東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド 無化粧 JAS 5プライ	→
			スギ 無化粧 JAS 5プライ	→
	欧州産	//	10.5×10.5×2.98m	→
合板	国産	東京・問屋店頭 渡し価格	タイプ2 F☆☆☆☆ 2.3mm厚 3×6	↗
			タイプ2 F☆☆☆☆ 4.0mm厚 3×6	↗
			型枠 12.0mm厚 3×6	→
			針葉樹構造用 12.0mm 3×6 F☆☆☆☆	→